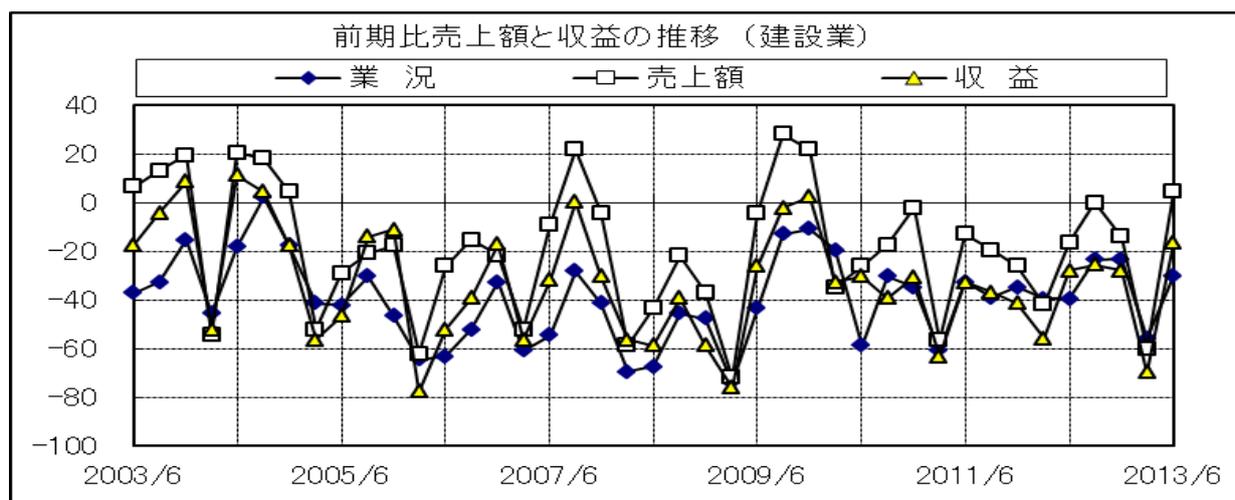


建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-23.3	-55.8	-30.2	0.0
売上額	-13.9	-60.4	4.7	14.0
収 益	-28.0	-69.8	-16.3	-6.9

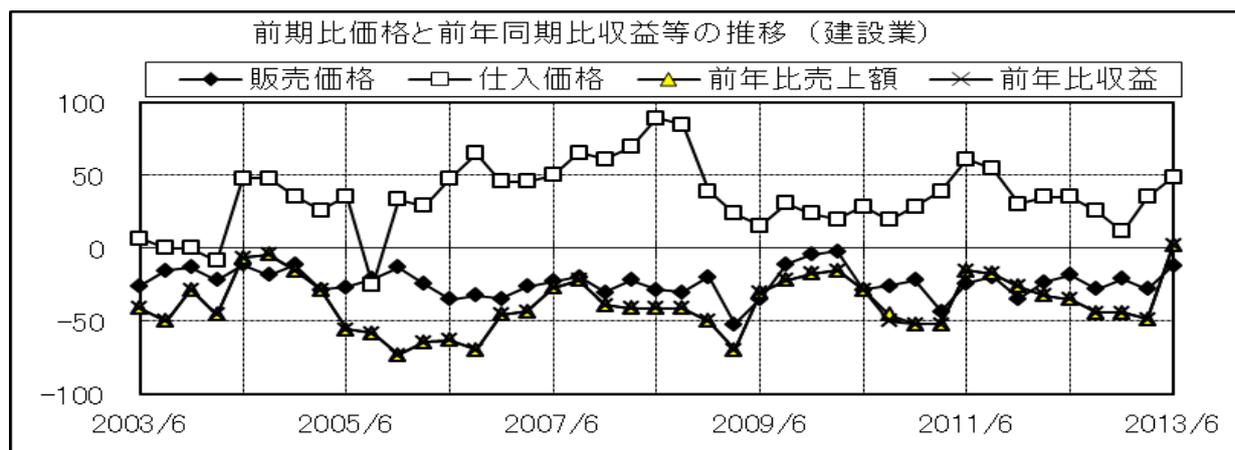
今期の業況判断DIは $\Delta 30.2$ と、前期比 25.6 ポイント上昇した。地区別のDI値の水準は類似、三石、広尾、えりも、浦河、静内の順となった。業況判断DIは、前年 ($\Delta 39.5$) 比でも 9.3 ポイント上昇した。売上額判断DIは 4.7 と、前期比 65.1 ポイント上昇した。収益判断DIは $\Delta 16.3$ と、前期比 53.5 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
請負価格	-21.0	-27.9	-11.7	-4.7
仕入価格	11.6	34.9	48.9	46.6

請負価格判断DIは $\Delta 11.7$ と、前期比 16.2 ポイント上昇し、価格低下基調を弱めた。仕入価格判断DIは 48.9 と、前期比 14.0 ポイントの上昇、価格上昇基調を強めた。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-16.3	-18.6	-11.6	4.7
人手状況	-14.2	-4.7	-11.6	-39.6

残業時間判断DIは $\Delta 11.6$ と、残業時間が減少したとする割合が減り、前期比 7.0 ポイント上昇した。

人手過不足判断DIは $\Delta 11.6$ と、前期比 6.9 ポイント下降し、人手不足感を強めた。

□ 設備投資の動き

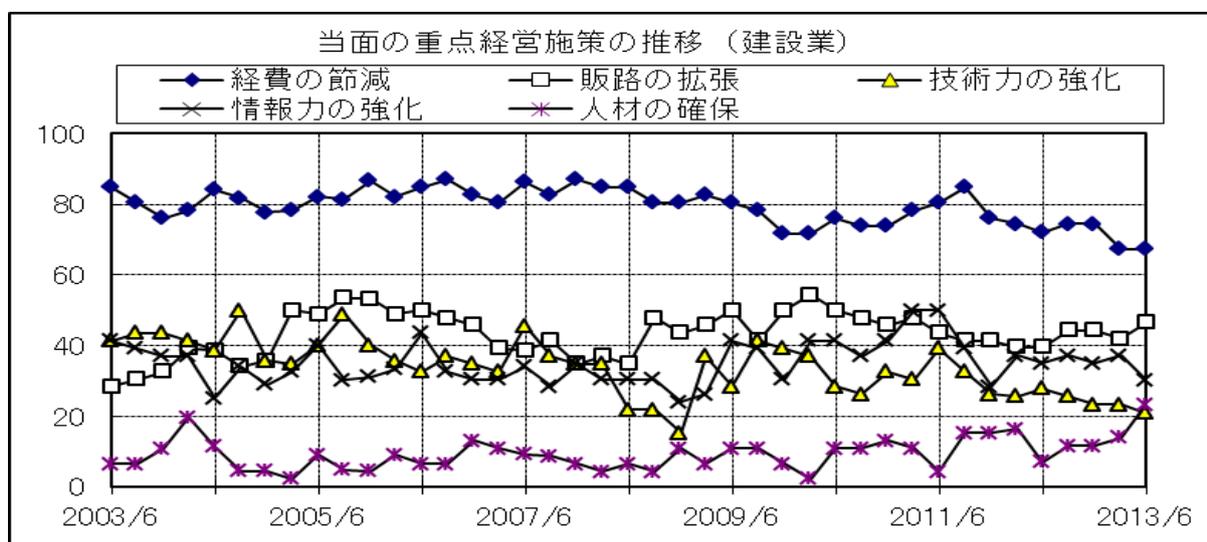
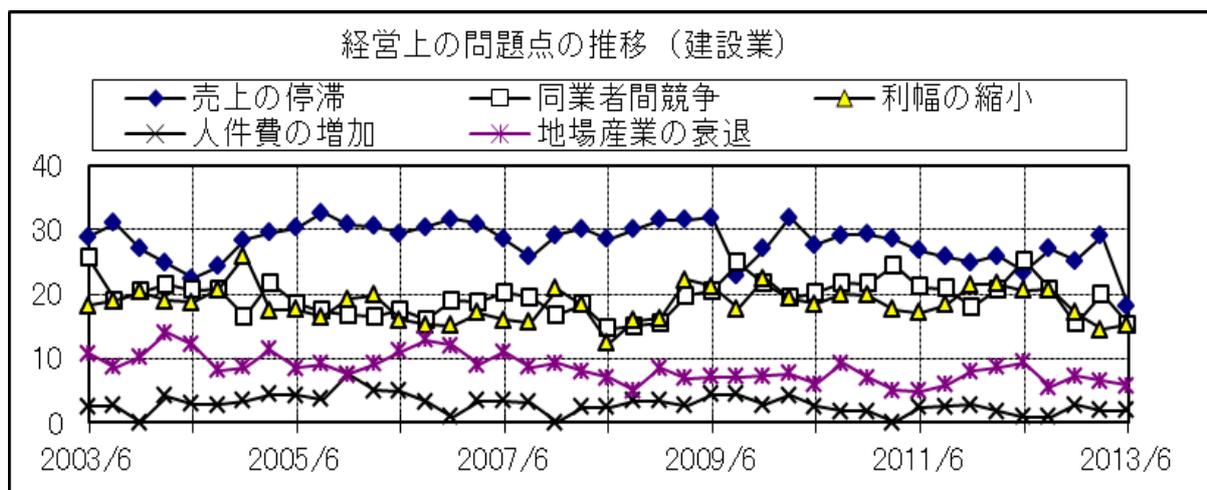
設備投資の充足感を示すD Iは、前期 $\Delta 9.3$ から $\Delta 7.2$ ポイントへと前期比2.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は27.9%と、前期比11.6ポイント上昇、前期の7社に対し12社の実施となった。来期の設備投資は、7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ18.1%、「同業者との競争」「利幅の縮小」が同率で15.2%、次に「材料価格の上昇」14.3%が続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ67.4%、次いで「販路の拡張」46.5%、「情報力の強化」30.2%、「人材の確保」23.3%、「技術力の上昇」20.9%の順となっている。



来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは $\Delta 0.0$ と、今期比30.2ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D Iは14.0と、今期比9.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D Iは $\Delta 6.9$ と、今期比9.4ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D Iは $\Delta 4.7$ と、今期比7.0ポイントの上昇を見通している。

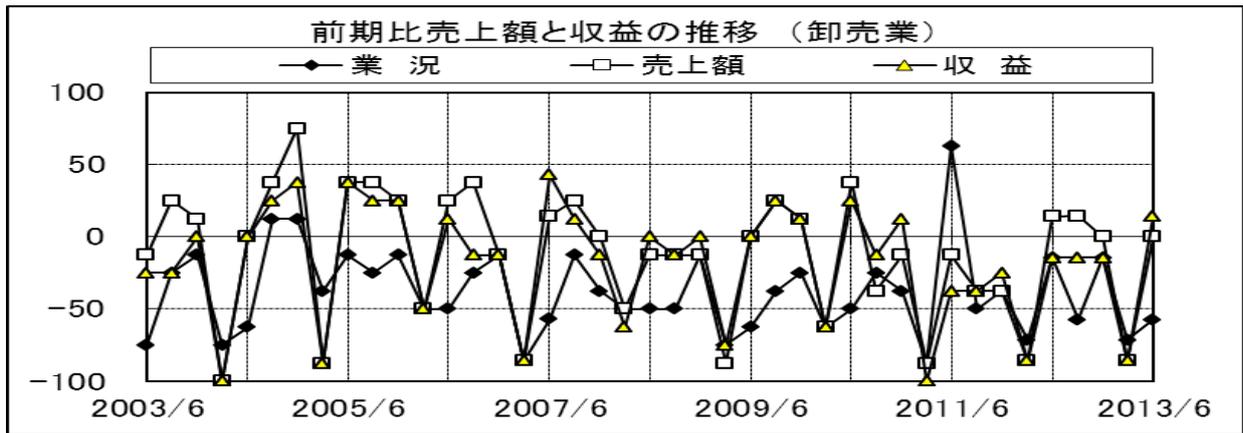
予想仕入価格判断D Iは46.6と、今期比2.3ポイントの下降を見通している。

卸売業 7企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-14.3	-71.5	-57.2	-28.6
売上額	0.0	-85.7	0.0	-14.3
収益	-14.3	-85.7	14.3	14.3

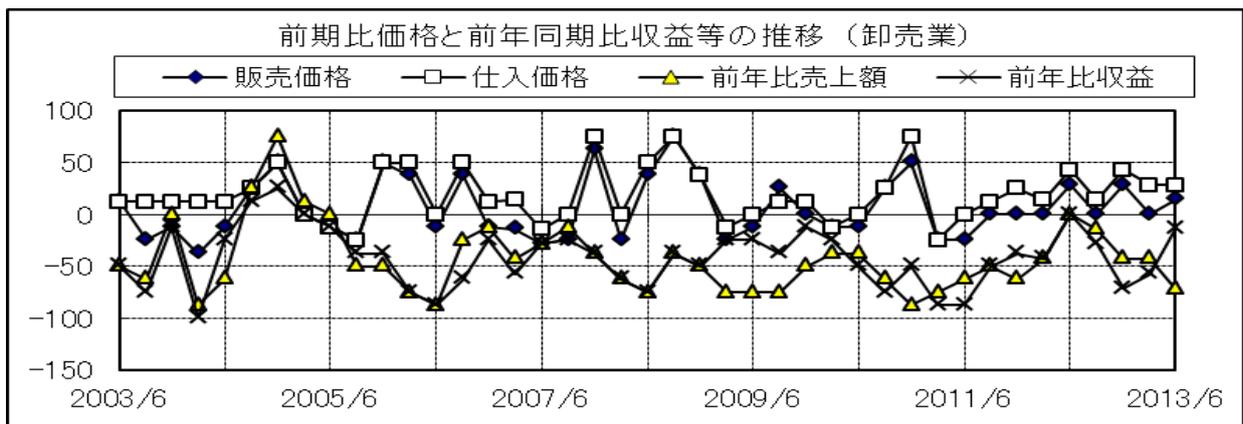
今期の業況判断DIは△57.2と、前期比では14.3ポイントの上昇となった。地区別にみると、浦河、静内、様似地区で横ばい、三石地区で上昇となった。しかしながら、業況判断DIは前年（△14.3）比では42.9ポイントの下降となった。売上額判断DIはゼロ水準で、前期比85.7ポイントの上昇となった。収益判断DIは14.3で、前期比100.0ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	28.6	0.0	14.3	-14.3
仕入価格	42.9	28.6	28.6	0.0

販売価格判断DIは、前期ゼロ水準から14.3ポイントと上昇した。仕入価格判断DI 28.6は、前期比横ばいとなった。業種別にみると、水産は販売価格が上昇し、仕入価格は横ばい。食品は販売価格、仕入価格ともに横ばいとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	0.0	-28.6	-14.3	0.0
人手状況	14.3	28.6	0.0	-14.3

残業時間判断DIは、残業時間が減少したとする企業割合が減り、14.3ポイント上昇した。人手過不足判断DIはゼロ水準で、前期比28.6ポイント下降し、適正状態となっている。

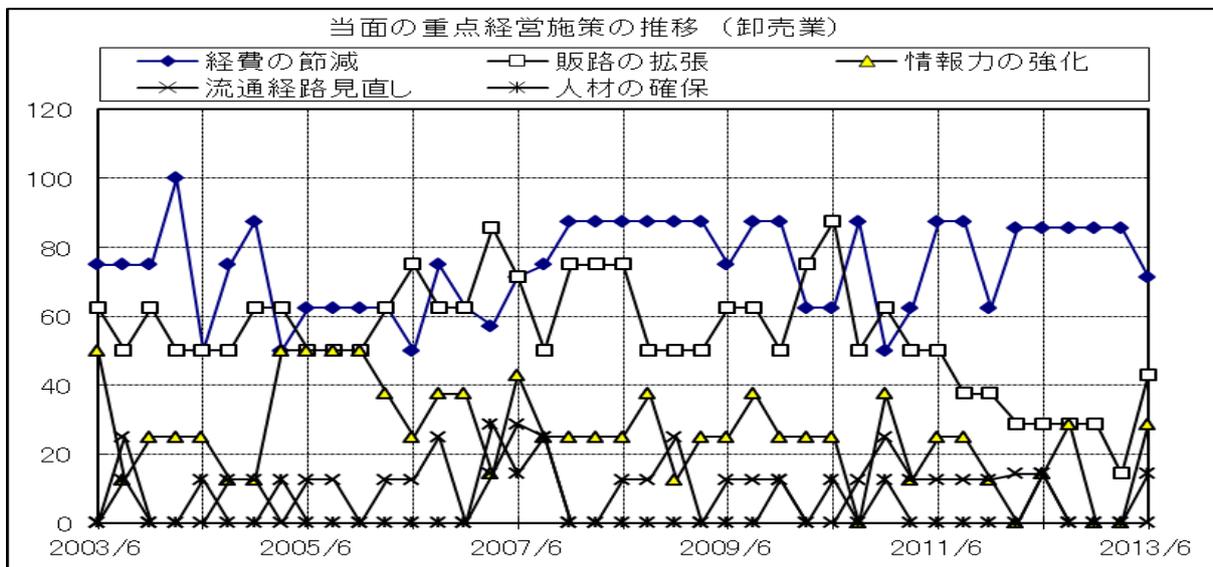
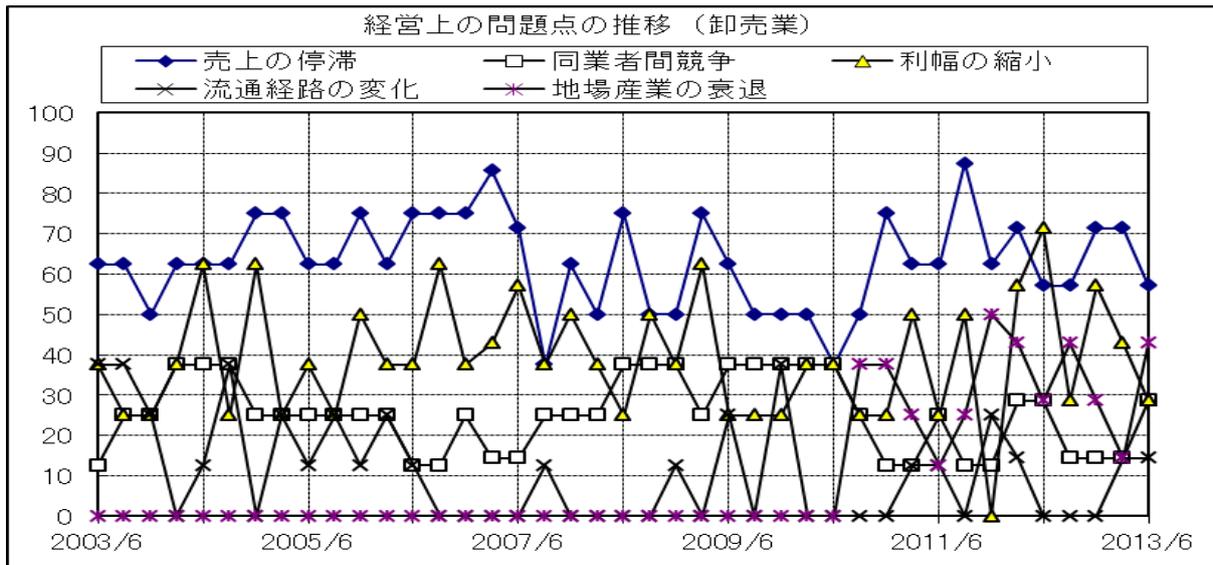
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは、前期比14.3ポイント減少し、ゼロ水準となった。設備投資実施企業はない。来期の設備投資の予定は1社となった。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ57.1%、次に「地場産業の衰退」が42.9%、「同業者との競争」「利幅の縮小」「取引先の減少」「諸経費の増加」が同率の28.6%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ71.4%、次いで「販路の拡張」が42.9%、「情報力の強化」が28.6%と続き、「新事業を始める」「人材の確保」「教育訓練を強化」「不動産の有効活用」が同率の14.3%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D I Δ 28.6は、今期比28.6ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D Iは今期ゼロ水準から Δ 14.3へと下降の見通しをしている。

予想収益判断D Iは今期と同値の14.3を見通している。

予想販売価格判断D Iは今期14.3から、 Δ 14.3へと28.6ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D Iは今期28.6からゼロ水準へと下降の見通しをしている。